

公益財団法人秋田県学校給食会

理事長あいさつ

七尾尊志

令和6年度も、時代の流れを反映して学校給食を取り巻く新たな課題も次から次へと押し寄せ、たいへん厳しい状況でした。そのような中で、皆様方におかれましては、本会に対しましてご支援・ご厚情を賜り、心より感謝申し上げます。

今後も、本会は公益財団法人という立場を踏まえ、柔軟に一つ一つの課題解決に向けて、所期の目的を果たしていけるよう取り組んでまいりたいと思っております。

本会は事業目的の柱の一つである「安全・安心で安価な食材の安定供給」は、学校給食の充実につながり、併せて食育の推進は明日を担う本県の子どもたちがこれからの変化の激しい時代を、生涯を通じて健康にたくましく生き抜くための基盤となるものと考えます。

私たちの目の前には、給食の時間を毎日楽しみにしている子どもたちがおります。食を愛し、しっかり食べて心身ともに大きく育っていけるよう、その健やかな成長を願い、学校給食での楽しみや安心と笑顔をさらに広げていけるように引き続き、貢献していければと思っています。

最後に、令和元年度より6年間本会に勤務された村上常務理事が本日、3月31日をもってご勇退されることになりました。村上常務理事にはコロナ禍の厳しい環境の中で、いろいろな課題に向き合い、本会の発展・充実のために献身的に業務を遂行していただきました。心より感謝申し上げます。

ご退任のあいさつ

常務理事 村上幸義

少ないようで多いのが「可能性」	広いようで狭いのが「視野」
低いようで高いのが「プライド」	深いようで浅いのが「知識」
薄いようで厚いのが「化粧」	辛いようで甘いのが「自評」
早いようで遅いのが「決断」	長いようで短いのが「人生」

人生、生きている間に、いろんな人と出会い・別れがあります。

そんな中、思わぬ誤解や勘違いをすることが多々あります。

決して他人を責め立てたり、差別したり、苛んだりしないように。

自分の立ち位置をしっかり認識しながら、日々の「生業」に努めてください。6年間、ありがとうございました。